

感染症情報 5月13日～19日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1,324例(堺市	57例)
②溶連菌感染症	607例(堺市	59例)
③手足口病	502例(堺市	59例)
④伝染性紅斑	168例(堺市	11例)
⑤咽頭結膜熱	104例(堺市	9例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 215例(堺市 14例)

感染症報告数は前週比30.8%増の2,993件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、咽頭結膜熱であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比して26%増、堺市は2%減であった。溶連菌感染症は府下で35%増、堺市で9%増であった。手足口病が府下で143%増、堺市で13例→59例となった。伝染性紅斑は府下で28%増、堺市で10例→11例であった。咽頭結膜熱は府下で21%減、堺市では17例→9例であった。

インフルエンザは府下で前週192例→今回215例であり、また増加した。堺市では前週11例→今回14例となった。

麻疹が府下で5例あり(堺市はなし)。麻疹の年始からの府内累計報告数は141例となった。

風疹は府下で1例あり(堺市はなし)。風疹の府内累計報告数は115例となった。